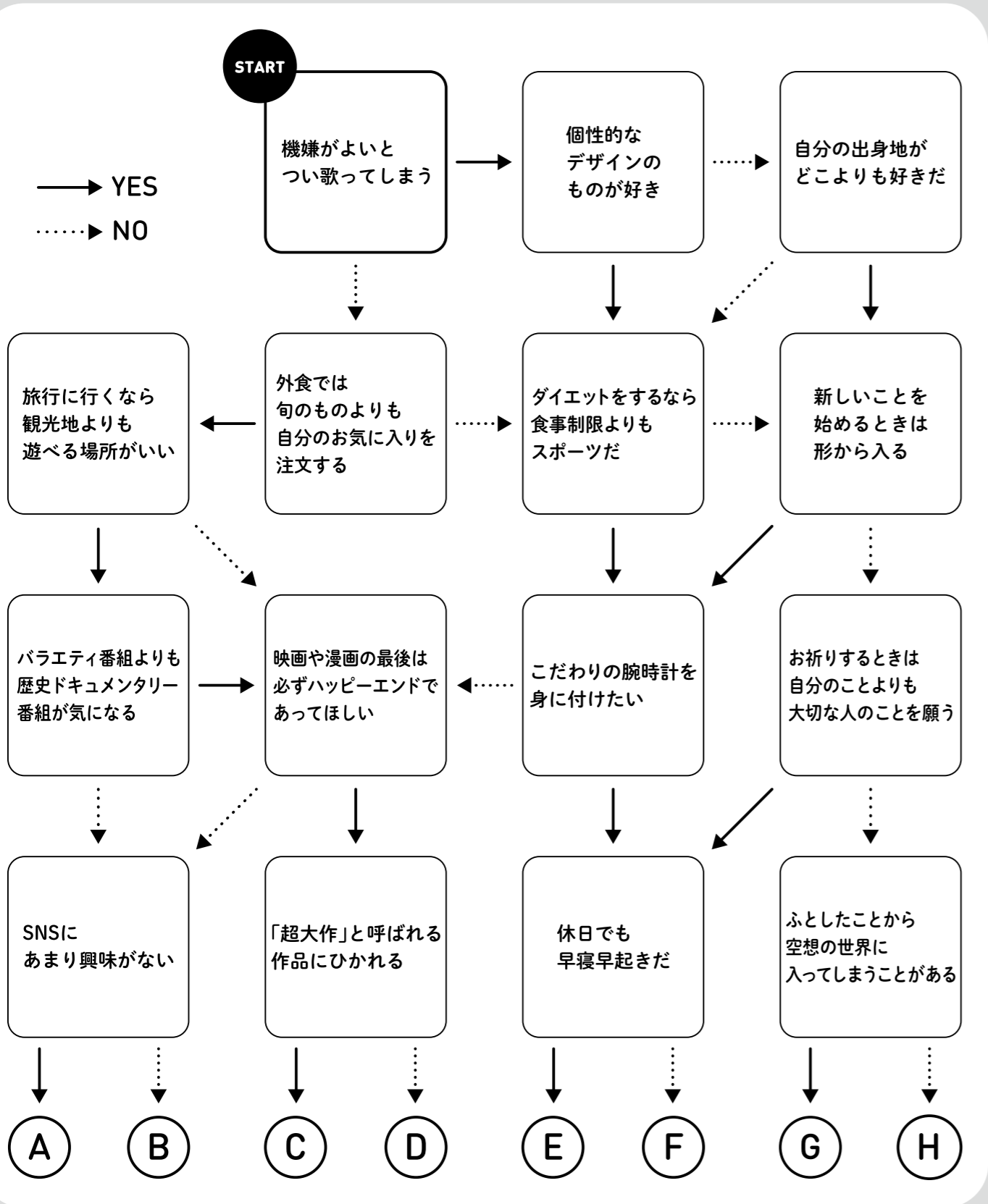


音楽診断

第10回 今年のおすすめ名曲編(2)

『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第10弾。8つの名曲から、今年のあなたにおすすめの作品をご紹介します。

監修・解説 = 山田治生
Text = Haruo Yamada



あなたへのおすすめは？

A ユーモアにあふれたコミカルな世界
デュカス 交響詩『魔法使いの弟子』
(初演：1897年/パリ)

デュカスはパリ生まれ。『魔法使いの弟子』は、ゲーテが書いた同名のバラード(詩)に基づく描写的な交響詩。魔法使いの弟子が、師匠の留守中に、聞き覚えた呪文でほうきに水くみを命じ、ほうきは命令通り水をくみ続ける。しかし、弟子は呪文の解き方を知らず、家は水浸しになってしまう。そこに師匠が帰ってくる。ファゴットがほうきの水くみを描写。この作品は、ディズニー映画『ファンタジア』で使われ、人気を博した。



C ダイナミックで迫力満点の冒険物語
ストラヴィンスキー『火の鳥』組曲
(初演：1910年/パリ・オペラ座)

『火の鳥』はストラヴィンスキーの三大バレエ音楽の一つであり、彼の出世作である。ロシア・バレエ団を主宰するディアギレフの委嘱により作曲され、1910年、パリ・オペラ座でロシア・バレエ団によって初演された。魔王カステイに捕らわれた王子が、かつて逃がしてやった火の鳥に助けられ、一人の王女と結ばれるというロシアの民話に基づいている。オリジナルのバレエ全曲版のほか、作曲家によって、1911年、1919年、1945年に異なる組曲が編まれた。



E 国と時代を超えて愛される祈りの歌
バッハ『主よ、人の望みの喜びよ』
(初演：1723年/ライプツィヒ)

J.S.バッハは、教会での礼拝のために200曲以上のカンタータを書いたが、『主よ、人の望みの喜びよ』は、彼のカンタータ第147番『心と口と行いと生活』の第10曲にあたるコラールである。印象的な3連符で動く伴奏によって、なだらかに息の長い旋律が歌われる。オリジナルは、『イエスは私の変わりのない喜び』と歌う宗教的な合唱曲だが、ピアノやオーケストラのほか、さまざまな楽器のために編曲され、演奏されている。



G 自然を愛して書かれた革新的な名作
ベートーヴェン『交響曲第6番《田園》』
(初演：1808年/ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場)

耳の病が進行し、人との接触を避けていたベートーヴェンが、心癒やされる自然に対する感謝の気持ちを表した、自然賛歌というべき交響曲。交響曲第5番『運命』とほぼ同時期に作曲され、『運命』と同じ演奏会(1808年12月22日、ウィーン)で初演されたが、劇的な『運命』とは対照的な穏やかで美しい作品。5つの楽章からなり、小川のせせらぎ、鳥の鳴き声、民衆の踊り、嵐などが描写され、最後は、牧歌、自然への感謝の祈りとなる。



山田治生(音楽評論家)

1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に『トスカニーニ〜大指揮者の生涯とその時代』、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人〜ある日本人指揮者の軌跡』、『いまどきのクラシック音楽の愉しみ方』(以上、アルファベータ)、編著書に『戦後のオペラ』(新国立劇場運営財団情報センター)、訳書に『レナード・バーンスタイン ザ・ラスト・ロング・インタビュー』(アルファベータ)などがある。

B 感動的なイギリス堂々の国民的愛唱歌
エルガー『行進曲《威風堂々》第1番』
(初演：1901年/リヴァプール)

エルガーはイギリスを代表する作曲家。彼は、行進曲『威風堂々』を5曲書き上げているが、その第1番は彼の全作品の中で最も人気の高いものといえるだろう。1901年に作曲された。中間部のゆったりとした旋律は特に感動的である。この旋律はエルガーによってエドワード7世の戴冠式を祝う合唱曲の中でも用いられ、その後、『希望と栄光の国』のタイトルでイギリスの国民的愛唱歌にもなった。ロンドンの夏恒例のBBCプロムスでもおなじみ。



D 美しく華やか！ 技巧も堪能できるピアノ曲
ショパン『ポロネーズ第6番《英雄》』
(作曲年：1842年)

『ポロネーズ』は、ポーランドの代表的な民俗舞曲の形式の一つ。16分音符を含むリズムが特徴的。ショパンのポロネーズのなかで最も有名な第6番『英雄』(英雄ポロネーズ)は1842年に作曲された。「英雄」のニックネームは、作曲者によるものではないが、作品の堂々たる内容をよく表している。半音階を含む序奏のあと、華麗に主題が提示される。中間部では、右手の優美なメロディーと左手のオクターヴでの16分音符の連打との対照が効果的。



F 平和への願いを込めて描かれたスペインの情景
ロドリゴ『アランフェス協奏曲』
(初演：1940年/バルセロナ)

最も有名なギター協奏曲の一つ。ロドリゴは20世紀スペインの作曲家。幼い頃に病で視力を失った。アランフェスとは、マドリッド近郊にある緑に恵まれたオアシス。かつて王宮の離宮があった場所だ。同地を訪れたロドリゴは、目で見ることができなかったが、強い印象を受け、かつての王室の典雅さと民衆の音楽に思いをよせてこの作品を書いた。とりわけ哀愁を帯びた第2楽章は、ポピュラー音楽にも編曲されるなど、広く知られている。



H 時代を先駆けたロマンティックな作品
モーツァルト『クラリネット五重奏曲』
(初演：1789年/ウィーン、ブルク劇場)

クラリネットは、比較的新しい楽器で、モーツァルトが生きていた時代はまだ発展途上の段階だった。モーツァルトは、晩年にクラリネットの名手、アントン・シュタードラーと出会ったのをきっかけに、クラリネット五重奏曲やクラリネット協奏曲を作曲した。この五重奏曲は、クラリネットと弦楽四重奏という編成。死の2年前(1789年)に書かれたこの優美な作品には、モーツァルトのロマンティックな心と澄んだ境地が表れている。

